

みんなのみどり

通 刊 8 号

2010.1.30

発行 みどり・山梨

事務所：山梨県甲府市古府中町984-2

(川村方)

電 話：055-252-0288

FAX：0553-33-7620

URL:<http://www.midoriyamanashi.com>

E-mail:kankyo@midoriyamanashi.com

郵便番号 00220-3-73986 みどり・山梨

『CO2 温暖化説のウソ：序説』

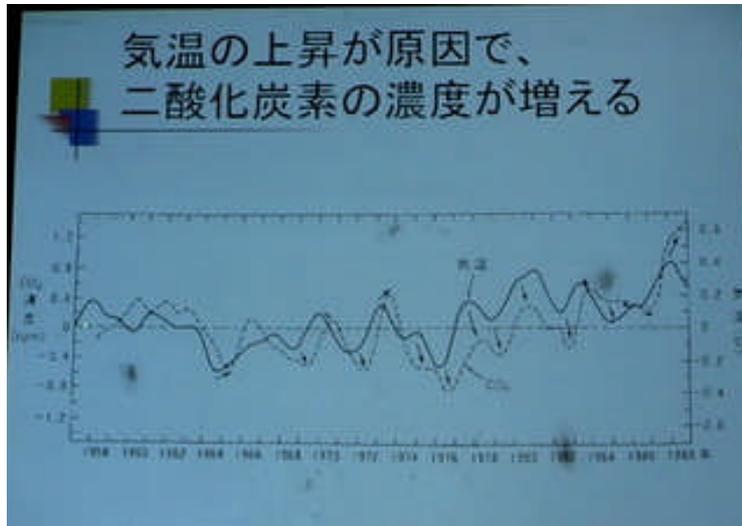
窪田 誠

地球温暖化データの人為的書き換えが発覚！～「気温の低下を隠す策略」の記述も

昨年末の朝日新聞(09.12.6)のベタ記事に気づいた方はどれほどいらっしゃるでしょうか。IPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の発表記事です。

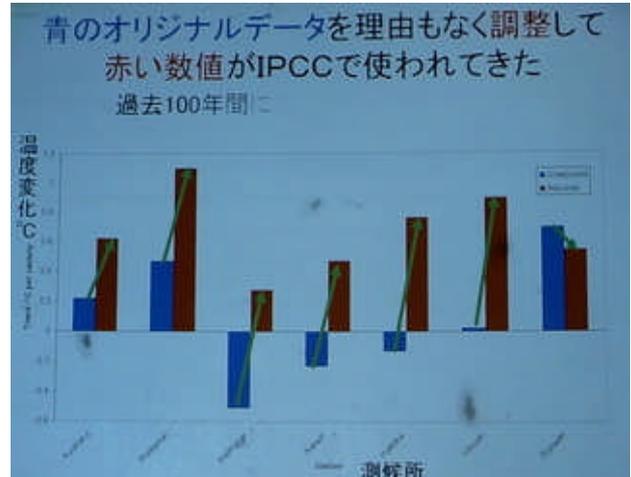
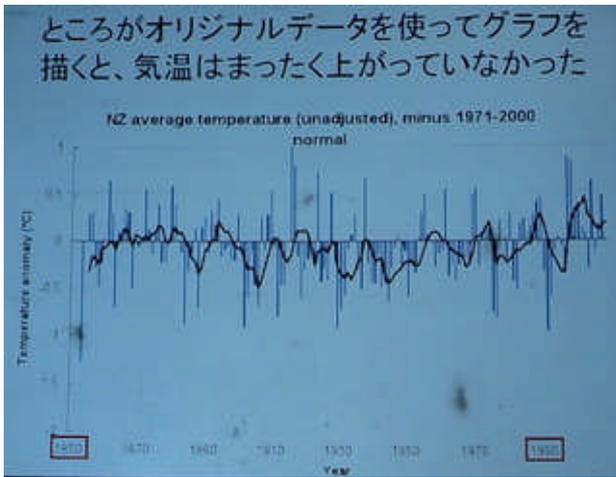
記事によれば、IPCC は最新の報告書に採用された地球温暖化データを科学者が故意に操作したとともとれる電子メールが見つかったことについて「人間活動が温暖化の原因の可能性が非常に高い」という報告書の内容が覆ることはないという声明を発表しました。

しかし、電子メールの内容を見ると、そのような声明はにわかに信じがたいものです。

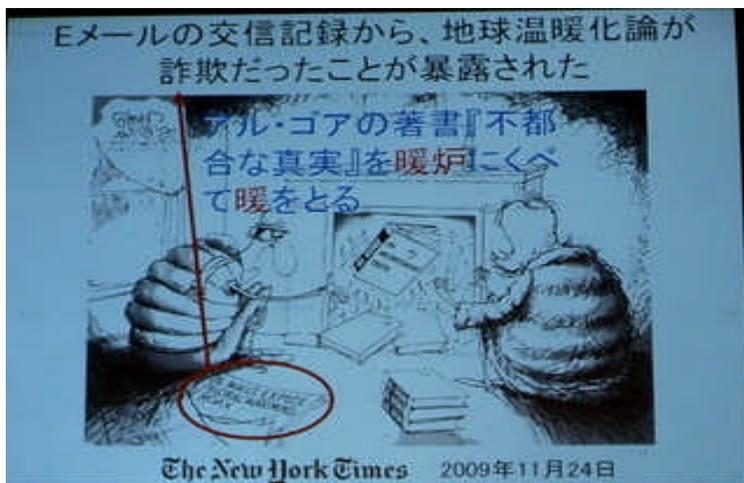


上のグラフを見てどう感じますか。ちょっと見にくいですが、濃い方の曲線が気温、薄く見える破線がCO2量の変化を表しています。私には、気温の上昇につれてCO2が増加しているように見えます。(決して、CO2の増加により気温が上昇しているようには見えません。)

IPCC の中心組織であるイギリスのイーストアングリア大学にある気候研究所ユニットのフィル・ジョーンズ所長がデータに作為的な嘘があることを認めています。以下がオリジナルデータを使ったグラフと改ざん前後の比較グラフ(なぜか一箇所だけは上昇させていますが)です。



この「電子メール」ニュースにより、今、世界中が温暖化説に疑問を投げかけています。ニューヨークタイムズ紙にはこんな漫画が載っています。



不勉強なマスコミを持つ日本だけが、ベタ記事でIPCCの声明しか書けないとは、情けないことです。最後にもう一枚、漫画を紹介します。これもニューヨークタイムズ紙に掲載されたものです。



かのIPCCのバウチャリ議長は「不法なハッキングで起こった不幸な事件」と説明しているようですが、「作為的な嘘」については否定していません。IPCCにとっては漏れてしまったことが「不幸な」ことなのです。本来ならば、まさに「不法な情報操作で起こった世紀の大詐欺事件」と言うべきでしょう。日本人も温暖化説の呪縛から抜け出さなければなりませんね。(参考資料: 広瀬隆氏より拝借しました)

< とことん市民・野沢今朝幸の笛吹市議会レポート >

主な議会活動

H21年 9月定例議会 < 9 / 3 ~ 9/25 >

一般質問

(1) 経費を伴う100条調査議案の提出案件について

6月の定例議会において、私と共産党2議員提出した「野沢勝利議員の下水道工事負担金に係わる100条調査議案」を、議会(実際は議会運営委員会)は、市長の「予算がない」との発言によって不受理とした。この処理は、2元(市長と議会)代表制を執ることによって、行政の民主的運用を保障している現法制化にあって、重大な誤りを犯している。それ故の質問である。

その誤りとは、予算上の問題で不受理など出来ないにもかかわらず不受理とし、その結果として、議会に市民から託されている最も重要な機能である「議会の行政監視」という役割を議会みずから放棄してしまった点にある。そして、行き着くところは、市長及び市長部局の独断専行となる。そうなれば市民にとっていいことは何もない。このような危機意識から質問に立った。

(市長に翻意を期待しての質問ではなく、この危機意識を議員の多くと共有したいがための質問であったが、ほとんどの議員が意に介しなかったことはとても残念である)

(2) 「多目的ホール」建設の適否について

市長は、6月の定例議会で、合併特例債(7割が国からの交付金措置、3割が自賄い)を活用して「市民ホール」建設に前向きに取り組むと表明した。その規模たるや、3ヘクタールの敷地に、1500人収容可能なホール、そして事業経費は50億円。年間維持管理費は約1億円というものである。

わずか半年前の市長選の公約でも一言も触れず、市の最も重要な計画である「総合計画」にも何ら明示されていない巨大ハード事業である。それだけになおさら、その必要性や背景などについて明確な説明をしなければならないにもかかわらず、その説明は「市民の一体化のために必要」と取ってつけたような一言があっただけで、納得しようにも取り付く島も無かった。

“まず建設ありき”という、バブル以前の古い行政体質のままである。

今回の「多目的ホールの建設について」の質問は、その辺の体質改善を迫ろうとするものであった。その論点は、建設の適否の判断に欠かせない「市民ニーズ」の調査を実施し、それを基にした必要性についての徹底的な議論をすべきだ。というところにおいた。

(十分な検討をすることなく、大会派を中心にほとんどの議員が推進派という中での質問ではあったが、市長サイドへの一定の抑止的効果はあったものと思われる)

一般質問(受理されず)

12月定例議会では、9月定例議会に引き続き「市民ホールの建設の適否について」の1点に絞って財政面からその問題性を指摘しようとした。しかし、同一質問が他の議員から通告されており、しかもその議員の方が早く通告した。との理由で私の質問は不受理となった。

つまり議場での私の一般質問は許可しないとして、議会運営委員会で処理された。

W議員によると、これまで笛吹市議会の慣例では、このようなことはなかったとのことである。同一質問が通告された場合、当事者双方の議員で調整し、それでも双方とも変更しないとなれば、そのまま認めたということである。

しかも今回の場合、同一質問を行うという議員と、双方の質問内容を検討した結果、全く異なる切り口からの質問であることが明らかとなり、その旨を議会運営委員会に説明したにもかかわらず、受理されなかったのである。「市民ホール」建設に批判的な私の発言を抑えることが初めからの狙いであったとしか考えられない。

今のところ、多勢に無勢で正論が通らない笛吹市議会である。3月定例議会にはいち早く一般質問の通告をし、「市民ホール」の財政上からの問題点を明らかにしようと思う。

議会・議員の実態(その3)

もちつもたれつでなれあう笛吹市議会

12月定例会においてである。私の所属する常任委員会のM委員長から、私に市長提出の「公の施設に係わる指定管理者の提案について」という議案に対する賛成討論をしてくれないか。という依頼の電話が入った。

この議案に対して共産党議員が反対討論をするから、それに対抗して賛成の討論をしてもらいたいというものである。もちろん私は言下に断った。

執行当局が窮状を脱しようと頼み込んでくるのは分からないでもない。まゝそれもおかしい話だが、議会の常任委員会の長が、執行当局の提出した議案を可決するための地ならしをこのような形でしているとはやっぱり常識からはずれている。

以前私は、議会事務局の職員だったと思うが、こそこそとH議員に原稿を渡しているのをチラッと目撃している。確かその時「賛成討論用の原稿」と、小声で言っていたようであったが、その時はあまり気にもとめなかった。まさかそんなことはなかりとうの思い込みがあったからだ。だが、私へのM委員長からの電話の一件があってからは、私は、まさかのことじゃなく、議会裏で頻繁になされている珍しくもないことだと分かった。なにせ私にまで依頼があったわけだから。

私たちは、賛成討論の原稿を読み上げる議員の姿に、淋しい話だが議会のなれあい性を読み取らなければならぬ。

また、笛吹市議会のなれあい性については次のような実例も経験している。

6月定例議会の開催中だったと思うが、「市民ホール」を含む6大プロジェクト人事案の構想を市長がはじめて提案したその場で即刻、市議会最大会派の代表者は、その構想への賛成と推進の意向を言明した。どの議員も概要さえ捕らえられないと思われるその段階での言明である。

以前から、かなり確かな裏情報として、市長と最大会派の「笛政クラブ」とで定期的に密会をもち、情報交換、意思疎通を図っているという話が流れていたが、代表者の即座の賛成は、そのことを間違いなしと裏づける格好となった。

議会に提案する前にすでに一部の議員 最大会派というところがミソを(?) - に説明し、賛同を取り付けておいてからの議会提出である。その過程でそれらの議員の意向も取り入れて修正もほどこされることもある。

議会という公開の場で審議を尽くし、案件の賛否を決し、あるいは修正を加えるというルールは見事にはじめから骨抜きにされていると言える。最大会派の議員にとって、審議の必要性すらないわけであるから、笛吹市議会には、こんな形でのもちつもたれつのなれあいもまかり通っているのである。

さらに、笛吹市議会での実例を今のところ幸いにも(?)報告できないが、議員と執行当局との間のなれあいにはこういうものもある。

それは、執行当局が実施したい事業施策を、議員に提案してもらおうというやり口である。

こういうやり口は、まず、議会人という同じ立場にある議員の提案を、他の議員が批判したり、否認することは実際問題なかなか難しいということを取手にも取り、また、議員は多くの市民を代表しているという理屈に立って、その発言は多くの市民の意見、意向を代弁しているということを利用して悪用するものである。

この場合、県議会でも公然の秘密となっているように、その質問原稿は執行当局が用意している。質問書も答弁書も執行部が書くわけである。口の悪いものは、シナリオ通りに進む学会のようなものだが、問題は多くの市民(県民)が、そのシナリオがなれあいの中でできあがっていると知らない点に残念ながらある。

当拙稿が、市議会のもちつもたれつでなれあうかたちを見抜く助けとなれば幸いである。

<シンポジウム「リニア中央新幹線は必要か？」と一緒に参加しましょう!!>

3月28日(日)の午後、東京都北区の飛鳥ホールで、「リニア・市民ネット」主催の上記のシンポジウムが開かれます。リニア中央新幹線は、これまでの報道を見ても、推進側による良いことづくめの鉄道のように喧伝されてきました。一方、リニアが背負うマイナス面は、いっさい検証されてきませんでした。

このシンポジウムは、そこに本格的にメスを入れる初めての試みです。

「みどり・山梨」からも、パネラーとして野沢さんが、コーディネーターとして川村が参加します。参加要項は「お知らせ」にあるとおりです。どうぞ奮ってご参加ください。(川村記)

コラム

ここでは「現代用語の基礎知識」として最後の意味を紹介いたします。このシリーズ、あくまでもブラック・ユーモアですから、ご理解いただけない方はここでお止め下さい。

あ【安全保障】〔名〕 武力で平和をつくろうとする 思い違い 略して安保という。しばしば、広大な領土を資産を持つ者(国)が、貧困者(国)からの平等を求める声を圧殺するために使われる。同盟関係を結び、自国の軍備のために相手国から多額の税金を吸い上げる国際法を含む。

い【異常な】〔形〕 規律に従わぬ 自主的であること。嫌悪されるこの状態を避けるため「周囲の人」と瓜二つになることをお勧めする。その境地に到達した方には、飢餓・貧困・過労死・自殺などの将来が約束されている。

う【梅田】〔名〕 関西地方の都市名 縦縞模様を旗印とする。信者たちの首都であり、聖地でもある。観光の目玉は、競合店に買収されたとはいえ、地上6階にあるショップ。風船を飛ばすスポーツが盛んな地である。特売品は「いかやき」。

え【エコ】〔名〕 生態学を指すエコロジーを略した和製英語。一般的には「さも環境に配慮していそう

な」、
「地球に優しい」ふりをして、環境を壊すときの言い訳として使用される。例：「ペットボトルのキャップを集めて、世界の子どもにポリオワクチンを」というような運動。ペットボトルを製造するために使われる資源・費用を基金にしたほうがよほど多くの人たちが助けられることは隠されている。

お【沖縄】〔名〕 琉球の略称 本来は独立国ながら、日本領でアメリカ第52番目の州という特殊な島。本島の20%を占める米軍基地のおかげで、戦争時は本土防衛の捨て石と期待されている。マスコミにとっても、戦闘機やヘリの墜落事故・米兵による暴行事件など、豊富なニュースソースを提供してくれるありがたい島である。

編集後記

本来なら昨年10月予定の「みんなのみどり」第8号ですが、編集局体制の不備により発行が大幅に遅れてしまいました。読者の皆様にはこの紙面にてお詫びいたします。さて、年明け早々不快なニュースが流れています。チェンジを掲げる、オバマ大統領が一般教書演説(10.1.27)で原発新設の方針を示したのです。「原子力なしで地球温暖化対策を進めるのは現実的でない」との判断から「安全でクリーンな新世代原発の建設」を推進していく姿勢を強調しました。原発の「非常に高温な」温排水が、地球上で最も激しい海の世界環境破壊を引き起こしている事実を知ってか知らずか、未来にとって非常に危険な一歩を踏み出したのです。今年は、地球温暖化説やリニア中央新幹線などの誤った認識を、どのようにして訂正・方向転換させていくのか。私たちの力も問われる年になりそうです。(M・K)